

三重大学

学生総合支援センター

Student Support Center

2012年度
報告書



三重大学学生支援方針

三重大学にとって、受け入れた学生は「宝」です。
その宝が輝くように、教員、職員、学生が一体となって支援します。



三重大学学生支援の4つのD

1. **Discovery**: 学生の中に眠っている宝を探します。
2. **Dream**: 眠っている宝が最高に輝いた夢を描きます。
3. **Design**: 描かれた夢を実現させるステップをデザインします。
4. **Destiny**: 夢実現のステップを実践し、宝を輝かせます。

2011年2月11日

三重大学長

内田淳二

目次

I 学生総合支援センター

・組織図	01
・学生総合支援センター会議 委員名簿	02
・学生委員会 委員名簿	02

II 学生生活支援室

・活動報告	03
・奨学生数	05
・外国人留学生数	06
・入学料・授業料免除者数	08
・学生寄宿舍入寮許可状況	09
・学生教育研究災害障害保険・学生教育研究賠償責任保険加入者数	10
・クラブ・サークル一覧(体育系・文化系)	11
・第61回東海地区国立大学体育大会成績結果	13

III 学生なんでも相談室

・活動報告	14
・学生なんでも相談室ニュース	16

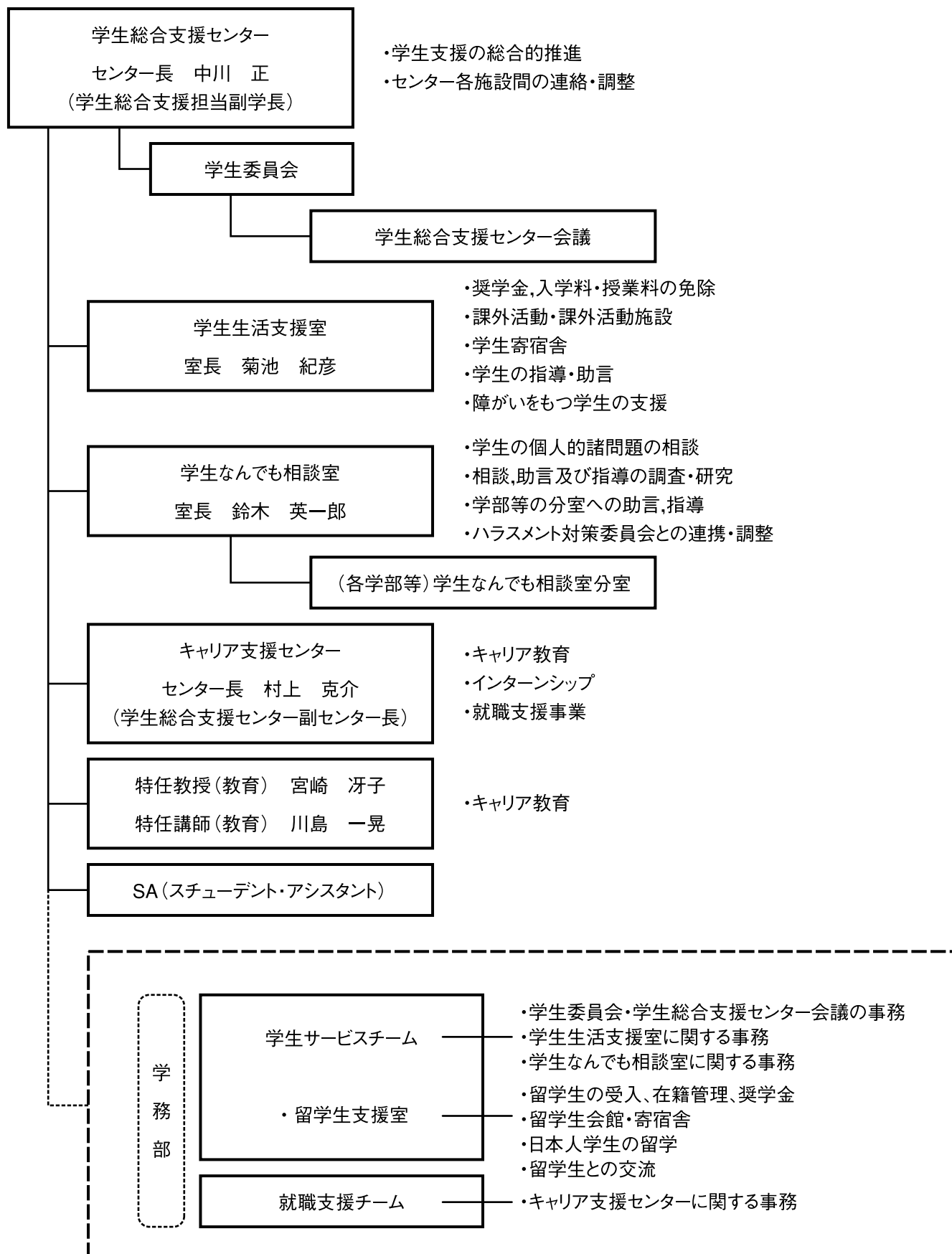
IV キャリア支援センター

・活動報告	18
・就職状況	23

V SA(スチューデント・アシスタント)

・取り組みを振り返って	25
・キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド	31

平成24年度 学生総合支援センター 組織図



平成24年度 学生総合支援センター会議 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援センター長	中川 正	議長 学生総合支援担当 副学長
	学生生活支援室長	菊池 紀彦	
	学生なんでも相談室長	鈴木 英一郎	
	キャリア支援センター長	村上 克介	副センター長
	学務部長	小川 幹夫	
	特任講師	川島 一晃	
陪席	学生サービス課長	野々村 晴子	
	学生サービスチーム副課長	伊藤 謙一郎	
	留学生支援室長	長岡 隆	
	就職支援課長	草川 雅彦	
	就職支援チーム副課長	大西 則弘	

平成24年度 学生委員会 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援センター長	中川 正	委員長 学生総合支援担当副学長
	人文学部	藤本 真理	
	教育学部	秋元 ひろと	
	医学部	成田 有吾	
	工学研究科	高橋 裕	
	生物資源学研究科	古丸 明	
	保健管理センター	住田 安弘	
	国際交流センター	吉井 美知子	
	学生生活支援室	菊池 紀彦	
	学生なんでも相談室	鈴木 英一郎	
	キャリア支援センター	村上 克介	副委員長
	学務部長	小川 幹夫	
陪席	学生サービス課長	野々村 晴子	
	学生サービスチーム副課長	伊藤 謙一郎	
	留学生支援室長	長岡 隆	
	就職支援課長	草川 雅彦	
	就職支援チーム副課長	大西 則弘	

平成24年度 活動報告

学生生活支援室長 菊池 紀彦

1.障害学生支援関係

今年度、本学に聴覚障害学生が入学してきた。学生生活支援室として、聴覚障害学生、保護者との面談を行うとともに、授業支援について検討を行ってきた。現在、情報保障としてのノートテイクを実施しているが、その経過については以下のとおりである。なお、これと関連した教育GPの取組について、「2.三重大学教育GPの取組」に記した。

4月 9日(月)：(入学式)：聴覚障害学生・保護者と面談を実施

5月 1日(火)：聴覚障害学生と面談し、ノートテイクを行うことを確認

5月16日(水)：聴覚障害学生と支援学生の顔合わせ(5月31日からノートテイクの実施)

6月12日(火)：支援学生との面談を実施

7月 4日(水)：聴覚障害学生との面談を実施

9月18日(火)：後期授業の支援について聴覚障害学生と面談を実施

10月23日(火)：聴覚障害学生の今後の支援について、当該学部学科の担当教員と面談を実施

2.三重大学教育GPの取組

「学生・教職員の協働による障害学生への支援体制に関する研究」という取組名称で本学教育GP(平成24年度から平成25年度の2年間)を取得した。今年度の取組については「1.障害学生支援関係」に加え、以下の通りである。

11月13日(火)：聴覚障害学生が所属する学科において、教員対象のFD研修会を開催した。

12月1日(土)～12月2日(日)：愛媛大学において開催された「第8回日本聴覚障害学生教育支援シンポジウム」に参加した。このシンポジウムには、大学教員2名の他、聴覚障害学生、支援学生5名が参加した。

3.クラブ・サークル活動関係

近隣住民から三重大学学生のマナーの悪さについて指摘された。具体的には、近隣の商業施設への無断駐車や、歩行者・自転車の交通マナーの悪さであった。こうした問題については、これまで教職員から注意喚起という形で学生指導を実施し、一定の成果が挙げられてきた。今回は、上記の取組に加え、学生・教職員の協働によりマナー向上の取組をめざすこととした。

7月4日(水)マナー向上の取組について、クラブ・サークル活動団体有志との打ち合わせを実施した。

10月30日(火)には、「学内清掃グリーンデイズ」として、各クラブ・サークルメンバーが学内清掃活動を実施した。

4.学外研修等

10月25日(木)～10月26日(金)：日本学生支援機構主催の「学生生活にかかるリスクの把握と対応に関するセミナー」に参加した。このセミナーは、自殺・飲酒・カルトに関連する取組に焦点が当てられ、講演および事例紹介が行われるとともに、分科会において参加者間での意見交換を行った。

5.課外活動施設の改善及び備品等購入助成

*第1 体育館	筋トレマシーン修理、通気窓保護柵取替、水銀灯取替
*第2 体育館	通気窓保護柵取替、排煙装置修繕
*体育練習場	取り壊し（新練習場建設は平成25年度以降）
*合宿所	洗濯機・乾燥機更新
*陸上競技場	走路ライン取替、幅跳び踏切板取替、やり投げ助走路修繕、 投てきネット一式取替
*テニスコート場	砂入れ、防風ネット及び支柱巻取器取替、コートブラシ更新、
*プール	コースロープ取替、プール清掃用ロボット購入
*野球場	グラウンド整地、ピッチングマシーン・防球ネット更新、 ダッグアウト横物置扉修繕
*サッカー・ラグビー場	砂入れ及び整地
*馬場	砂入れ及び整地
*吹奏楽団	譜面収納用倉庫設置、楽器購入
*ヨット部	ヘリオス修繕
*消耗品購入	硬式野球部、準硬式野球部、医水準硬式野球部、アメフト部、硬式テニス部、 ハンドボール部、バレーボール部、空手道部、体操部、応援団、極津、天狗う、 他
*その他	乗用草刈機更新、補充用砂置場設置

平成24年度 奨学生数

平成25年3月1日現在

区分 学部等		在学生数	日本学生支援機構			地方公共団体 民間育英団体	合計	在学生に 対する 百分率	
			第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	計				
学部	人文学部	1,253	173	255	428	9	437	34.9%	
	教育学部	877	134	179	313	5	318	36.3%	
	医学部	1,069	143	183	326	405	731	68.4%	
	工学部	1,831	235	321	556	9	565	30.9%	
	生物資源学部	1,112	161	163	324	13	337	30.3%	
大学院	人文社会科学研究科		35	6	2	8	0	8	22.9%
	教育学研究科		108	16	8	24	0	24	22.2%
	医学系研究科	修士	54	10	2	12	0	12	22.2%
		博士	188	10	2	12	0	12	6.4%
	工学研究科	前期	503	168	70	238	1	239	47.5%
		後期	64	11	0	11	0	11	17.2%
	生物資源学研究科	前期	194	55	14	69	2	71	36.6%
		後期	53	6	0	6	0	6	11.3%
	地域イノベーション学研究科	前期	23	13	3	16	0	16	69.6%
		後期	17	2	0	2	0	2	11.8%
計		7,381	1,143	1,202	2,345	444	2,789	37.8%	
特別支援教育特別専攻科		13	1	0	1	0	1	7.7%	

平成24年度 学部別外国人留学生数 一覧表

5月1日現在

		人文学部	教育学部	医学部	工学部	生物資源学部	地域イノベーション学研究科	国際交流センター	計
学部	正規	12 (8)	3 (2)		24 (3)	3 (1)			42 (14)
	非正規	32 (24)	9 (9)		14 (5)	6 (4)		11 (9)	72 (51)
計		44 (32)	12 (11)	0 (0)	38 (8)	9 (5)	0 (0)	11 (9)	114 (65)

修士	正規	8 (7)	27 (23)	2 (2)	9 (3)	22 (11)			68 (46)
	非正規	8 (3)	1 (1)		4 (0)	5 (4)			18 (8)
計		16 (10)	28 (24)	2 (2)	13 (3)	27 (15)	0 (0)	0 (0)	86 (54)

博士	正規			15 (5)	12 (3)	22 (8)			49 (16)
	非正規						2 (2)		2 (2)
計		0 (0)	0 (0)	15 (5)	12 (3)	22 (8)	2 (2)	0 (0)	51 (18)

合計		60 (42)	40 (35)	17 (7)	63 (14)	58 (28)	2 (2)	11 (9)	251 (137)
----	--	---------	---------	--------	---------	---------	-------	--------	-----------

()内は、女子を内数で示す。

平成24年度 国籍別外国人留学生数 一覧表

25ヶ国・地域

251 (137)

5月1日現在

国・地域			【学 部】		【大 学 院】		【国際交流センター】			計
			正規生	非正規生	正規生	非正規生	日本語・ 日本文化 研修生	日本語 研修生	特別聴 講生	
アジア	1	中国	22 (8)	25 (18)	83 (49)	13 (10)	3 (2)			146 (87)
	2	ベトナム	12 (3)	1 (1)	3 (1)				3 (3)	19 (8)
	3	バングラデシュ			4 (0)	1 (0)				5 (0)
	4	韓国	5 (2)	8 (5)	3 (0)					16 (7)
	5	タイ		2 (2)	5 (2)	2 (0)			2 (2)	11 (6)
	6	ミャンマー			1 (1)					1 (1)
	7	マレーシア	3 (1)	2 (2)	3 (1)					8 (4)
	8	アフガニスタン			2 (0)					2 (0)
	9	インドネシア		5 (4)	5 (3)					10 (7)
	10	インド			2 (1)					2 (1)
	11	ネパール			1 (1)					1 (1)
中東	12	ヨルダン			1 (0)					1 (0)
アフリカ	13	マリ共和国			1 (1)					1 (1)
大洋州	14	オーストラリア				1 (0)				1 (0)
中米	15	ドミニカ共和国			1 (1)					1 (1)
ヨーロッパ	16	ドイツ		12 (9)						12 (9)
	17	スペイン		2 (0)	1 (0)	1 (0)				4 (0)
	18	モルドバ共和国			1 (1)					1 (1)
	19	スウェーデン		2 (1)						2 (1)
	20	トルクメニスタン					1 (0)			1 (0)
	21	ハンガリー					1 (1)			1 (1)
	22	フランス		1 (0)		1 (0)				2 (0)
	23	セルビア		1 (0)						1 (0)
	24	リトアニア					1 (1)			1 (1)
	25	ロシア				1 (0)				1 (0)
合 計			42 (14)	61 (42)	117 (62)	20 (10)	6 (4)		5 (5)	251 (137)
			103 (56)		137 (72)		11 (9)			

()内は、女子を内数で示す。

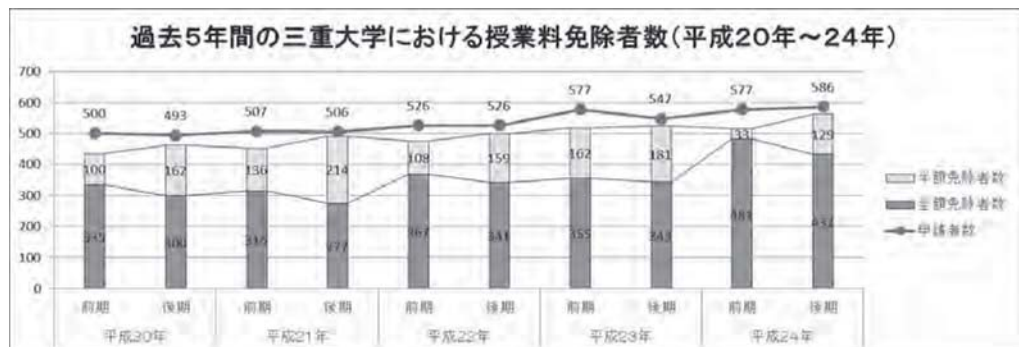
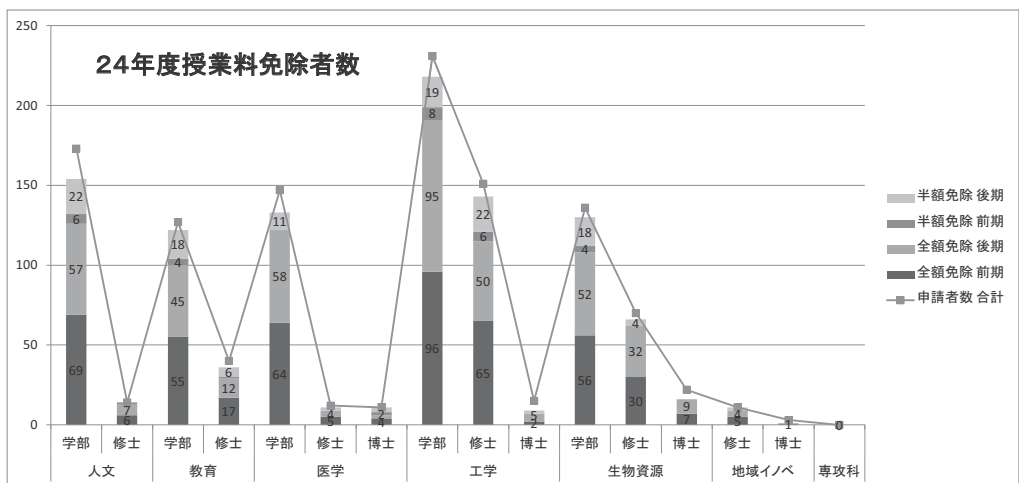
正規生 159 (76)

非正規生 92 (61)

平成24年度 入学料・授業料免除者数(学部・研究科別)

入学料免除		※平成24年度から学部入学生も経済的理由による免除申請が可能になった。		
学部・研究科名		免除申請者数	全額免除	半額免除
人文	学部	19	0	5
	修士	3	0	2
教育	学部	14	0	8
	修士	10	0	1
医学	学部	7	0	1
	修士	1	0	0
	博士	2	0	1
工学	学部	17	0	6
	博士前期	38	0	16
	博士後期	2	0	1
生物資源	学部	13	0	7
	博士前期	10	0	4
	博士後期	1	0	0
地域イノベ	博士前期	1	0	1
	博士後期	1	0	1
専攻科		0	0	0
合 計		139	0	54

授業料免除		申請者数			全額免除		半額免除		免除者計	
学部・研究科名		前期	後期	合計	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	学部	84	89	173	69	57	6	22	75	79
	修士	7	7	14	6	7	1	0	7	7
教育	学部	63	64	127	55	45	4	18	59	63
	修士	22	18	40	17	12	1	6	18	18
医学	学部	73	74	147	64	58	0	11	64	69
	修士	6	6	12	5	4	0	2	5	6
	博士	6	5	11	4	2	2	3	6	5
工学	学部	113	118	231	96	95	8	19	104	114
	博士前期	79	72	151	65	50	6	22	71	72
	博士後期	7	8	15	2	5	0	2	2	7
生物資源	学部	64	72	136	56	52	4	18	60	70
	博士前期	34	36	70	30	32	0	4	30	36
	博士後期	12	10	22	7	9	0	0	7	9
地域イノベ	博士前期	5	6	11	5	4	0	2	5	6
	博士後期	2	1	3	0	0	1	0	1	0
専攻科		0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		577	586	1,163	481	432	33	129	514	561



平成24年度 学生寄宿舍 入寮許可状況報告

男子学生寄宿舍



定員：109名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成24年度	54	46	46	

女子学生寄宿舍



定員：60名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成24年度	34	31	31	

国際女子学生寄宿舍



定員：日本人学生50名 留学生25名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成24年度	日本人学生	24	24	24	
	留学生	18	18	18	

平成24年度 学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険 加入者数

学 部	入学者数	加入者数	加入率
人文学部	315	213	68%
教育学部	210	191	91%
医学部	215	151	70%
工学部	441	321	73%
生物資源学部	274	257	94%
小 計	1,455	1,133	78%

大学院	入学者数	加入者数	加入率
人文社会科学研究科	15	9	60%
教育学研究科	56	23	41%
医学系研究科			
（博士課程）	39	10	26%
（修士課程）	20	10	50%
工学研究科			
（博士後期課程）	13	5	38%
（博士前期課程）	255	105	41%
生物資源学研究科			
（博士後期課程）	13	12	92%
（博士前期課程）	90	78	87%
地域イノベーション学研究科			
（博士後期課程）	3	3	100%
（博士前期課程）	11	6	55%
特別支援教育特別専攻科	13	12	92%
小計	528	273	52%

合計	1,983	1,406	71%
----	-------	-------	-----

平成24年度 クラブ・サークル一覧

●体育系・全学

平成24年8月1日現在

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	陸上競技部	39	11	50	32	トライアスロン部	15	9	24
2	水泳部	20	14	34	33	応援団	34	23	57
3	硬式野球部	32	4	36	34	ビーンズ(硬式テニス)	27	25	52
4	準硬式野球部	14	3	17	35	ブルーマリン(スキューバダイビング)	17	9	26
5	サッカー部	23	4	27	36	バスケットボール同好会	18	3	21
6	ラグビー部	23	9	32	37	ダイビングサークル	58	35	93
7	アメリカンフットボール部	22	6	28	38	ボウリング部	10	0	10
8	馬術部	7	9	16	39	まいのり(テニス、バドミントン)	29	25	54
9	硬式テニス部	22	9	31	40	ラインブレイク(釣り)	23	13	36
10	ソフトテニス部	28	17	45	41	極津	0	22	22
11	ハンドボール部	18	9	27	42	WILL(テニス)	30	20	50
12	バレーボール部	17	9	26	43	球技サークル～MARIMO～	18	5	23
13	バスケットボール部	19	13	32	44	合気研究会	2	4	6
14	バドミントン部	17	7	24	45	ブルーロゼット(テニス)	24	2	26
15	卓球部	24	11	35	46	ハンドボールサークル(FTH)	19	12	31
16	体操競技部	5	0	5	47	BiSuKe(ヒースケ)(バスケット)	20	5	25
17	ダンス部	17	17	34	48	Wild Geese(ワイルド・ア)	29	15	44
18	柔道部	4	0	4	49	サイクリングサークル	19	0	19
19	剣道部	19	5	24	50	ジャグリングサークル	70	35	105
20	空手道部	3	5	8	51	Links(ソフトテニス)	25	6	31
21	少林寺拳法部	15	9	24	52	狩る!マッチョ(サッカー)	39	6	45
22	日本拳法部	5	3	8	53	Hoop	6	6	12
23	合気道部	15	10	25	54	フラメンコサークル OLe!	1	7	8
24	ワンダーフォーゲル部	11	1	12	55	PLUS STYLE(筋力・体力トレーニング)	6	0	6
25	ゴルフ部	14	1	15	56	NEXT(ストリートダンス)	15	17	32
26	弓道部	14	11	25	57	天狗う	28	25	53
27	アーチェリー部	24	9	33	58	RED HAPPINESS(軟式野球)	11	2	13
28	ヨット部	8	5	13	59	合気道・武の道	1	10	11
29	ボート部	2	2	4	60	You Can SEA	5	3	8
30	カッター部	16	10	26	61	すまっしゅ	15	7	22
31	自動車部	19	1	20	62	航空部	1	0	1

●体育系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	山岳部	5	5	10	10	ラグビー部	31	20	51
2	競技スキー部	12	13	25	11	ゴルフ部	30	22	52
3	剣道部	26	19	45	12	陸上競技部	23	24	47
4	バレーボール部	16	21	37	13	野球部	20	10	30
5	バドミントン部	27	24	51	14	サッカー部	38	13	51
6	バスケットボール部	15	21	36	15	弓道部	21	27	48
7	硬式テニス部	36	39	75	16	卓球部	40	26	66
8	ソフトテニス部	15	22	37	17	空手道部	11	2	13
9	ハンドボール部	18	16	34	18	水泳部	1	1	2

●文化系・全学

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	管弦楽団	26	47	73	30	ねこサークル	27	46	73
2	吹奏楽団	14	34	48	31	落語研究会	9	0	9
3	ギターマンドリン	10	14	24	32	Blue Planet(本のリユース)	6	0	6
4	ギター	12	11	23	33	Transfer(編入生サポート)	5	2	7
5	邦楽部	4	13	17	34	天文サークルSOLA	19	27	46
6	室内楽団	7	9	16	35	BBS(児童ボランティア)	15	23	38
7	写真部	11	13	24	36	アンサンブルサークル「ぶるさあ」	16	32	48
8	合唱団	30	21	51	37	聖書研究会	1	1	2
9	美術部	5	16	21	38	Pioneer(アカハラ)	30	34	64
10	漫画倶楽部	23	3	26	39	みえ・シネマアーカイブ	8	5	13
11	E.S.S	22	27	49	40	ジョイア(外国人の子供への学習支援)	0	5	5
12	軽音楽部	85	37	122	41	三重大学ユネスコクラブ	3	9	12
13	めばえサークル	5	8	13	42	三重大学農業サークル翠	5	11	16
14	人形劇団つくし	5	8	13	43	アンビシャスカード(マジック)	16	2	18
15	ピアノ同好会	17	10	27	44	Silhouette(ジャズ)	7	8	15
16	表千家茶道部	2	15	17	45	三重大学ベンチャーサークル	5	0	5
17	裏千家茶道部	5	23	28	46	ぶらり旅サークル	8	2	10
18	SF研究会	20	1	21	47	カードゲームサークルDUEL	16	0	16
19	リカゲル(創作活動)	42	63	105	48	DTMサークル JACK(コンピューター使用による作曲)	8	0	8
20	囲碁・将棋部	22	0	22	49	START(外国人労働者・難民支援)	3	9	12
21	HELLO FM	14	14	28	50	三重大学災害ボランティア支援団体MUS-net	0	4	4
22	華道部	1	6	7	51	High Tone(軽音楽)	7	3	10
23	エレクトーンサークル23-two・three-	7	7	14	52	食農サークル農らく	7	3	10
24	万葉旅行の会	9	6	15	53	カラオケサークルDAH	4	1	5
25	ブラスバンドサークルBB研究会	8	5	13	54	ポケ雀サークル	11	2	13
26	かめっぶり	21	17	38	55	Pa-Tan!	30	3	33
27	心太(書道)	12	14	26	56	てらこや	5	12	17
28	劇団クレスト	7	7	14	57	仲村学校	6	0	6
29	卓上文化研究会	14	1	15	58	ヴァンパイア	7	3	10

●文化系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	美術部	3	4	7	5	sessionサークルBAG	30	12	42
2	東洋医学研究会	15	14	29	6	ロック部	17	15	32
3	軽音楽部	20	23	43	7	きゅうめい部	16	29	45
4	医療 学生研究会	23	23	46	8	東海地区小児糖尿病サマーキャンプ三重学生部会	8	7	15

第61回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

①日時 平成24年6月2日(土)・3日(日)、9日(土)・10日(日)、6月16日(土)・17日(日)、23日(土)・24日(日)、30日(土)
7月1日(日)、14日(土)・15(日)、22日(日)

②場所 三重県営総合競技場他19会場

③幹事大学 三重大学

④成績

(男子)

競技種目	大学名	三重大 順位	名古屋大 順位	岐阜大 順位	名工大 順位	豊技大 順位	静岡大 順位	浜医大 順位	愛教大 順位	備考
1 陸上競技		5	4	3	6	7	2	8	1	
2 水泳		3	2	1	7	8	4	6	5	
3 硬式野球										雨天中止
4 準硬式野球										雨天中止
5 硬式テニス		3	1	5	2	5	5	4	5	5位以下は順位なし
6 ソフトテニス		3	/	2	4	7	5	6	1	
7 バスケットボール		2	/	3	6	4	1	/	5	
8 バレーボール		6	2	1	7	4	3	5	/	
9 卓球		5	1	4	7	6	2	/	3	
10 バドミントン		1	3	2	5	7	4	8	6	
11 サッカー		7	1	2	3	/	5	6	4	
12 ハンドボール		6	3	1	4	/	5		2	
13 柔道		5	1	2	4	5	5	/	3	5位以下は順位なし
14 剣道		5	2	1	5	5	3	/	4	5位以下は順位なし
15 空手道		5	4	6	7	8	1	2	3	
16 弓道		/	3	5	2	7	6	1	4	
17 体操						/		/		オープン競技
18 馬術		3	1	3	2	/	3	/	3	3位以下は順位なし
19 アーチェリー		4	1	3	/	/	4	/	2	
20 少林寺拳法		5	2	3	/	/	4	/	1	
男子順位		5	1	2	6	8	4	7	3	

(女子)

競技種目	大学名	三重大 順位	名古屋大 順位	岐阜大 順位	名工大 順位	豊技大 順位	静岡大 順位	浜医大 順位	愛教大 順位	備考
1 陸上競技		4	5	2	/	/	3	6	1	
2 水泳		6	3	2	/	/	5	4	1	
5 硬式テニス		2	4	1	/	/	3	5	5	5位以下は順位なし
6 ソフトテニス		1	/	3	5	/	2	/	4	
7 バスケットボール		4	/	2	/	/	1	/	3	
8 バレーボール			4	1	/	/	3	5	2	
9 卓球		2	5	1	4	/	3	/	6	
10 バドミントン		5	2	4	6	/	1	3	7	
12 ハンドボール		/	/		/	/	/	/		オープン競技
13 柔道		/			/	/		/		オープン競技
14 剣道		3	4	5	/	/	2	/	1	
15 空手道		5	1	6	/	/	2	4	3	
16 弓道		/	4	2	5	/	1	3	6	
17 体操		/			/	/	/	/	/	オープン競技
19 アーチェリー		2		3	/	/	/	/	1	
女子順位		5	4	2	7	8	1	6	3	

Ⅲ 学生なんでも相談室

平成24年度 学生なんでも相談室 活動報告

I. 平成24年度の来談者に関する統計

	新規相談受付						案内	Co.による 継続面接	その他の 継続対応	peer 対応	合計
	教育	心理	進路	生活	その他	合計					
4月	3	6	3	0	1	13	136	27	17	40	233
5月	2	5	2	0	5	14	47	39	27	—	127
6月	3	4	2	0	2	11	27	36	33	—	107
7月	1	4	0	1	0	6	40	32	25	—	103
8月	0	0	1	0	0	1	29	12	10	—	52
9月	1	0	4	0	1	6	22	21	29	—	78
10月	3	11	1	2	0	17	34	51	45	—	147
11月	2	8	1	2	0	13	31	37	38	20	139
12月	3	5	1	0	0	9	13	40	29	—	91
1月	5	3	1	1	0	10	20	44	46	—	120
2月	2	3	2	0	0	7	25	20	29	—	81
3月	0	0	3	0	0	3	18	22	29	—	72
合計	25	49	21	6	9	110	442	381	357	60	1,350

※数字はいずれも延べ件数、延べ人数を示す。

※「新規相談受付」件数の「その他」は、心理テスト・箱庭療法体験、分類困難な相談等の総数を示す。

※「案内」は事務的な案内やガイダンス、および比較的軽微な相談等の総数を示す。

※「その他の継続対応」は、主にCo.による担当事例に関する面接室外のケースワーク活動等の総数を示す。

→「新規相談受付件数」については、昨年度と比べて「進路相談」が若干増えた。一方で、「教育相談」が若干減少した結果、年度合計としては、昨年度とほぼ変わらない件数となった。

→「Co.による継続面接」件数「その他の継続対応」件数ともに、昨年度と比較して増加した。

→「peer対応」件数は、昨年と比べて若干増加した。

Ⅱ. ピアサポート活動の状況

CPSとの共同企画により、4月、7月、10月(11月)に以下のような相談活動を実施した(利用学生数は上述のとおり)。

①4月

新入生の履修登録期間中と4月中の数日、総合研究棟Ⅱメディアホール前にて

②7月

7月13日～23日 環境情報科学館2階の就職支援コーナーにて

③10月(11月)

10月29日～11月16日 翠陵会館1階フリースペースにて

→秋の相談活動では、掲示板を利用した相談活動(投稿された質問カードに回答を記入し、後日掲示)を取り入れたところ、利用者が急増した。今後の相談活動でも導入を検討したい。

→相談活動を通じての他団体(環境ISO学生委員会、人文学部自治会、生協学生委員会など)との連携が定着してきた。

Ⅲ.その他(24年度事業計画に照らして)

◎相談業務

- ・学生の様々な相談への対応
- ・学生の保護者・教職員を対象としたコンサルテーション
- ・各部局(学部)との連携・協働の調整
- ・各種心理テスト・箱庭療法体験 <随時>
- ・相談室スタッフと分室相談員による定期ミーティングの実施 <隔月の予定>

→相談業務に関しては、上述のとおり。

→定期ミーティングでは、昨年度より医学部分室担当カウンセラーも参加。
ただし、今年度は学部の先生方にご参加いただくことができなかった。
引き続き、メール連絡等で参加を呼び掛けたい。

◎相談室広報

- ・新生に対する相談室PRカードの配布 <4月>
- ・インターネット(ホームページ)の活用 <随時>
- ・学生支援関係教職員を対象とした、ニュースレターやメールマガジン形式の配布物の作成 <随時>
- ・各部局(学部)の要請を受けた形での各種講演やFDの担当 <随時>

→新生に対する配布物は4月に対応した。来年度についても、PRカードは配布予定。

→「ニュースレター」vol.1を8月に発行した。

→「各種講演・FD」については、2月8日に医学部看護学科にて学生対応に関する講演を実施した。

◎キャリアピアサポート活動支援

- ・ピアサポーターによる自主的な学生支援活動に対するサポート <随時>
(ex.新生を対象とした相談窓口、修学支援デスク等)
- ・アカデミックフェアの運営に対する協力・支援 <後期>

→前述のとおり、共同企画として相談活動を3回実施した。

→アカデミックフェアについては、昨年度に続き、交流会の担当を指示した。さらには、会全体の進行についても対応してもらうことができた。

◎授業の担当

- ・共通教育「主題I」に当たる授業(「こころのサポート」、「学生生活支援実践」、「ピアサポート実践」)の担当

→いずれも予定通り実施した。

→「学生生活支援実践」「ピアサポート実践」における成果は、アカデミックフェア2013(2月14日実施)の中で発表した。

学生なんでも相談室 ニュース

Vol.1

発行：2012年8月
学生なんでも相談室

- 相談室利用状況から
- カウンセラーのコラム
- 心に残る先生からの言葉
- お知らせ

先生方におかれましては、日頃より学生なんでも相談室の活動にご理解、ご支援をいただき、たいへんありがとうございます。当相談室では、今後「学生なんでも相談室ニュース」として、このように定期的に相談室の利用状況などをご紹介していきたいと考えております。先生方が日常の学生対応をされる上で、何らかのお役にたてるようであれば幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



相談室利用状況から

今年度4～6月期の当相談室利用者（案内・ガイダンス、学生相談）延べ件数は表1のとおりでした。

表1

	学 生	保護者	教職員	その他	合 計
4月	160	11	4	5	180
5月	98	6	9	0	113
6月	72	4	20	0	96
合計	330	21	33	5	389

さて、当相談室は、大きく分けて「案内・ガイダンス機能」と「学生相談機能」を有しているわけですが、今回は特にこのうち「案内・ガイダンス機能」について着目してみたいと思います。

今年4月の「案内・ガイダンス延べ件数」は表2のとおりですが、例年4月は新入生を中心として案内・ガイダンスの件数が最も多くなる時期です。今年も、4月の利用者の多くは新入生であり、そのうちの約7割は履修・資格・進路など学業に関する案内でした。但し、ここ数年、履修そのものに関する質問・案内の件数は減ってきており、各学部が新入生オリエンテーション等において、手厚いケアをしてくださるようになったことに伴う良い傾向であると推察しています。また、復学する学生の保護者や、不登校状態にある学生の保護者より、新年度以降の修学に関するフォローやサポートについてお問い合わせいただくケースも増えてきています。

次に、比較対象として、6月の「案内・ガイダンス延べ件数」（表3）を挙げました。4月と比較すると、学部の教職員の利用件数が増えています。このことから、先生方にとって、これまで様子見していた「授業に出

てこない（学校に来られていない）学生”に対して、もう一歩踏み込んだ対応を検討される必要が出てきた時期なのかもしれません。表3の数字は、それに伴う教職員の利用件数の増加と考えられます。

表2

4月	1年生	2年生以上	保護者	教職員	その他	合 計
学校関連	62	9	10	0	0	81
心体	5	11	1	0	0	17
その他	26	6	0	1	5	38
合計	93	26	11	1	5	136

表3

6月	1年生	2年生以上	保護者	教職員	その他	合 計
学校関連	0	2	3	9	0	14
心体	0	2	0	1	0	3
その他	0	3	0	0	0	3
合計	0	7	3	10	0	20

◎ 7月～9月は不適応状態の学生を見つけやすい時期

7月～8月は、テストへの欠席やレポートの未提出に伴って、人知れず不適応状態に陥っている学生が顕在化してくる時期であると言えます。特に、必修科目でそのような状況が見られる場合には、何らかの問題が発生している可能性が高いと思われます。

9月には前期の成績表も出てきますので、先生方には、是非こうした点から担当学生について気にかけていただき、必要に応じて相談室にもご相談いただければと存じます。

カウンセラーのつらみ

「コミュニケーション力」を求める学生を見て思うこと

室長（専任カウンセラー） 鈴木英一郎

相談室で日々学生と接している中で、学生さんが他者からの評価に過敏になっている傾向を感じます。実際、学生さんの悩みの中には「あの子に○○な態度を取られたのは、私が□□と言ったことが原因なのではないか」「あの子が私に◆◆してくれないのは、私が▲▲だと思われているからではないか」という話題が頻繁に出てきます。

しかも、ひょっとしたらこれは相談室に来られる学生さんに限った傾向でもないのかもしれませんが。立場上、学生さんからグループ学習の一環として数多くのインタビューを受ける機会がよくあるのですが、これまで「どうやったらコミュニケーション力が身につくのか」「初対面で上手に振る舞うためにはどうしたら良いのか」といった内容のものがほとんどでした。私は、このような学生さんに、「あなたたちの考えている“コミュニケーション力”“上手な振る舞い”なるものの定義は何か」「それは必ず身につけなくてはいけないもの

なのか」「どうして初対面から上手に振る舞わなければいけないのか」といつも聞き返すようにしています。彼らは、一瞬困った後で、「相手に嫌われたくないから」とか「空気を読めない奴だと思われたくないので」と返してきます。

他者の目を意識すること自体、「青年期」の特徴の一つなのでしょうが、どうしてそんなに他者に良く見られる自分でなければならないのか、という違和感も覚えます。他者が自分のことをどう思おうとも、自分は自分であり、むしろ「自分は他者から良く見られなければならない」という根拠のない強い思い込みによって、結局素直な自分らしさを発揮することができないままとり、いつまでたっても適切な自尊感情も獲得できないでいる、という悪循環にハマってしまっているのではないのでしょうか。

小さなことでもいいから自分に自信を持てること、それも、他者からの評価や他者との比較に依るものではなく、「自分はこれで良いのだ」という自分自身の納得に基づく健全な自尊感情を、せめてこの大学生活の中で築いていって欲しいなと願っています。

心に残る先生からの言葉

ここでは、「先生からこんな言葉をかけてもらって嬉しかった」、「あの時の先生のこんな言葉で支えられた」というような本学における学生の体験を、ピアサポーター学生委員会の協力のもと収集して、今後順次紹介していきたいと思っています。

本学の事例は現在収集中ですので、今回は他大学における事例を少しご紹介したいと思います。

「そんなに体調が悪いのに、
よく今まで頑張ってきたね」

⇒（学生）張りつめていたものが
一気に緩み、数年ぶりに泣けてし
まった。それまでは泣くことも抑
圧していたんだと気がついた。

「努力するなら全面的に応援する。

ただ、統計的に君が卒業できる確率は 50%だ」

⇒（学生）どうしたらよいのが自分で
分からなかったが、50%あるのなら賭けてみようと思えた。

励ましや示唆を得ることができた 先生からの言葉

「時間がないけれど、3分なら話を聞くんよ」

⇒（学生）忙しいのに話を聞いてくれるとは
親切な先生だと思った。

このように、先生方にとっては何気ない一言だったとしても、学生にとっては救われることもあるようです。

次号以降は本学の事例を、より詳細な状況とともにお伝えできればと思います。

引用：佐藤枝里(2012) 学生を育む教職員のことは 日本学生相談学会第30回大会発表論文集 P.67

※取り上げた事例については、本質を損なわない程度に一部改変している箇所があります。

お知らせ

全学FD「学生支援サミット2012：学生支援の夢を描こう」（主催：学生委員会、学生総合支援センター、ピアサポーター学生委員会）

日時：9月25日（火）10時～12時

場所：総合研究棟Ⅱ1階メディアホール

学生、教員、職員が共に語り合うことを通して、今後の本学の学生支援の将来像を描き、具体的な計画を策定するための集いです。

お問い合わせは、学生サービスチーム（gakusei-s@ab.mie-u.ac.jp）まで

Ⅳ キャリア支援センター

平成24年度キャリア支援センター活動報告

1. キャリア教育

【平成24年度開講 共通教育キャリア授業科目】

科目名	担当教員	開講時期	単位数	備考
アントレプレナー論	教育学部 教授 山根 栄次 他	前期	2単位	
三重ブランドの創出	人文学部特任准教授 谷口 智雄 他	後期	2単位	
「4つの力」スタートアップセミナー	高等教育創造開発センター 長濱 文与 他	前期(クラス指定)	2単位	
キャリアプランニング	学生総合支援センター 特任教授 宮崎 冴子 他	前期(4コマ) 後期(1コマ)	各2単位	
こころのサポート	学生なんでも相談室 助教 鈴木英一郎 他	前期(2コマ) 後期(2コマ)	各2単位	
学習支援実践I	高等教育創造開発センター 長濱 文与 他	前期	2単位	
学習支援実践Ⅲ(日本語)	人文学部 教授 吉田 悦子 他	前期	2単位	
学生生活支援実践	学生なんでも相談室 助教 鈴木英一郎	後期	2単位	
留学生支援実践	人文学部 教授 中川 正 他	後期	2単位	
大学紹介実践	産学連携コーディネーター客員 教授 佐藤 之彦	後期	2単位	
広報誌編集実践	生物資源学部 教授 村上 克介	後期	2単位	
障がい学生支援実践	教育学部 教授 荒川 哲郎 他	後期	2単位	
環境ISO実践	人文学部 特任准教授 谷口 智雄 他	後期	2単位	
三重大ブランドづくり実践	生物資源学部 教授 久松 眞	後期	2単位	
啓発イベント実践	教育学部 教授 中島喜代子 他	後期	2単位	
法則探検実践	人文学部 教授 中川 正	後期	2単位	
AI一人と組織を生かす発想法ー	人文学部 教授 中川 正 他	前期(2コマ) 後期(1コマ)	各2単位	
ピアサポート実践	学生総合支援センター 講師 川島 一晃 他	前期 後期	各2単位	
就職とキャリア形成	医学部 教授 西村 訓成	後期	2単位	

ライフ・プランニングと社会参画	男女共同コーディネーター客員 教授 鈴木 雅子	後期	2単位	
キャリア形成・能力開発	学生総合支援センター 特任教授 宮崎 冴子	前期	2単位	
仕事・社会を知る	学生総合支援センター 特任教授 宮崎 冴子	後期	2単位	
キャリア・インターンシップⅠ	学生総合支援センター 講師 川島 一晃	前期	2単位	
キャリア・インターンシップⅡ	学生総合支援センター 特任教授 宮崎 冴子	前期	2単位	
法則探検入門	人文学部 教授 中川 正	前期	2単位	
現代の消費生活と消費者自立	教育学部 教授 吉本 敏子	前期	2単位	
PBLセミナーⅠ(週2コマ履修すること)	学生総合支援センター 特任教授 宮崎 冴子	後期	4単位	
合計		31科目(前期13科目) (後期18科目)		

○キャリア教育担当専任講師を採用(25年1月)

2.インターンシップ

【所属別・学年別参加者数】

平成25年1月31日

所属	学部生							大学院生			合計
	1年	2年	3年	4年	5年	研究生等	小計	修士	博士	小計	
人文学部	22	11	30			1	64	2		2	66
教育学部	1		17				18	1		1	19
医学部							0	1		1	1
工学部	3	2	34	3			42	41	8	49	91
生物資源学部	8	11	24	4			47	4		4	51
地域イノベーション							0	10		10	10
合計	34	24	105	7	0	1	171	59	8	67	238

○受入企業等数 122機関

○インターンシップ事前・事後研修会を開催

〈事前研修会〉

- ・平成24年6月9日(土) 13:00～16:30 講堂大ホール他
- ・参加学生数 271人

〈事後研修会〉

- ・平成24年11月14日(水) 16:30～18:10 講堂小ホール
- ・参加学生数 85人

3.就職活動支援

1) 就職ガイダンス

- ・平成24年4月～平成25年2月 30回 実施 講堂大ホール他
- ・参加学生数 延べ 8,339人

		ガイダンス名等	日時	場所	講師等	対策	参加数
前期	1	新入生のための キャリアプランニング	4月2日(月) 4月3日(火) 11:00～12:00	講堂大ホール	学生総合支援センター キャリア支援センター	学部新入生	1,378
	2	公務員試験対策説明会	5月15日(火) 13:00～14:30 同日 16:30～18:00	小ホール	(株)講師ネットワーク 岩田 雅彦氏	公務員志望者	321
	3	留学生のための就職支援について	5月16日(水) 15:00～16:30	メディアホール	キャリア支援センター (株)リクルート	留学生	11
	4	これからの就職活動に向けて ースタート	5月23日(水) 16:30～19:00	講堂大ホール	キャリア支援センター (株)マイナビ (株)リクルート	企業等志望者	240
	5	就職活動の心構えと 自己分析について	6月6日(水) 13:00～14:30 同日 16:30～18:00	講堂小ホール	(株)ディスコ 前原 加奈氏	企業等志望者	225
	6	業界・企業・職種研究について	6月27日(水) 13:00～14:30 同日 16:30～18:00	講堂小ホール	(株)ジェイ・ブロード 高須賀 洋樹氏	企業等志望者	157
	7	グループ選考対策講座	7月4日(水) 16:30～18:00 同日 18:30～20:00	メディアホール	エン・ジャパン(株) 大島 由美氏	企業等志望者	51
	8	社会人としての身だしなみとマナー	7月11日(水) 16:30～18:00	講堂小ホール	(株)学情 服部 明子氏 生協とタイアップ	企業等志望者	86
	9	文系学生のための仕事の探し方	7月18日(水) 14:40～16:10	メディアホール	エン・ジャパン(株) 中村 優一郎氏	企業等志望者	36
	10	生物資源学部生のための 仕事の探し方	7月18日(水) 18:10～19:40	生物資源学部 大講義室	エン・ジャパン(株) 中村 優一郎氏	企業等志望者	83
	11	基礎力アップセミナー 就職活動を見直そう	7月25日(水) 16:30～18:00	講堂小ホール	ハローワーク 松尾 里美	3、4年生対象	51
後期	12	これだけは押さえよう! 就職活動の基本講座	10月3日(水) 16:30～18:00	講堂大ホール	(株)マイナビ 副編集長 土山 勇 氏	企業等志望者	306
	13	先輩に聞く就活の仕方 (企業内定者)	10月4日(木) 16:30～18:30	講堂小ホール	キャリア支援センター長 及び企業等内定学生	企業等志望者	141
	14	エントリーシート対策	10月10日(水) 13:00～14:30	講堂大ホール	(株)リクルート	企業等志望者	214
		面接対策	同日 16:30～18:00				116
	15	県内大学 合同企業説明会	10月15日(月) 13:00～17:00	講堂小ホール およびホワイエ	三重学就連	4年生・M2対象	23
	16	日経新聞活用講座/グループワーク	10月17日(水) 16:30～18:00	生物資源学部 大講義室	日経メディアプロモーション(株) 須田 勝則氏	学年指定なし	70
			10月24日(水) 16:30～18:00	メディアホール			27
	17	ワーク型/エントリーシート対策	10月31日(水) 14:00～15:30	メディアホール	キャリア支援センター	3年生、M1年生対象	36
			同日 17:00～18:30			3年生、M1年生対象	31
	18	実践!業界・企業研究	11月7日(水) 13:00～15:00	保健管理センター 就職情報コーナー	キャリア支援センター	3年生、M1年生対象	23
			同日 16:30～18:30			3年生、M1年生対象	20
	19	直前必勝講座[勝てる]自己PR 志望動機そして[勝てる]伝え方	11月15日(木) 16:30～18:00	講堂小ホール	(株)学情	企業等志望者	110

		ガイダンス名等	日時	場所	講師等	対策	参加数
後 期	20	先輩に聞く就活の仕方 (公務員合格者)	11月21日(水) 18:10～19:40	講堂小ホール	キャリア支援センター長 及び企業等内定学生	公務員等志望者	66
	21	IT情報を活用した就職支援講座	11月26日(月) 16:30～18:00	メディアホール	就活支援団体J.C.D 天野 佑介氏	企業等志望者	17
	22	ワーク型/履歴書対策(志望動機)	11月28日(水) 13:00～15:00	メディアホール	キャリア支援センター	3年生、M1年生対象	34
			同日 16:30～18:30			3年生、M1年生対象	29
	23	入門編/ グループディスカッション体験	12月6日(木) 13:00～15:00	メディアホール	キャリア支援センター	3年生、M1年生対象	42
			同日 16:30～18:30			3年生、M1年生対象	26
	24	公務員等説明会	12月13日(木) 13:20～17:20	講堂小ホール 及びホワイエ	参加機関数 国家公務員6機関 地方公務員6機関他	公務員志望者	98
	25	理系企業研究会	12月19日(水) 13:00～16:30	環境情報科学館 1階	参加企業数 理系対象6社	企業等志望者	133
	26	学内企業研究会	12月22日(土)～ 12月26日(水) 連続5日間	講堂小ホール 及びホワイエ	大手企業・地元優良企業 約535社	企業等志望者	3,907
	27	エントリーシート対策	1月23日(水) 15:00～16:30	講堂大ホール	(株)マイナビ 増田 ゆう子氏	企業等志望者	196
	28	面接対策	1月23日(水) 16:40～18:10	講堂大ホール			
	29	2013年卒対象者合同就職相談会	1月30日(水) 14:00～	メディアホール	(株)O-GOE 神田 充人氏 みえ新卒応援NPO-ワーク清水 正司氏	4年生・M2対象	13
	30	県内大学合同 合同グループディスカッション	2月12日(火) 13:30～16:45	メディアホール	三重学就連	3年生、M1年生対象	22
計							8,339

2) ミニ講座(少人数制：個人面接・集団面接・グループディスカッション対策等)

- ・平成24年4月～平成25年3月 19回実施 就職情報コーナー他
- ・参加学生数 延べ 141人

	実施日	内容	参加数
1	4/10、11	個人面接	9
2	4/10	集団面接	4
3	4/11	集団面接	5
4	5/10	個人面接	9
5	5/18	グループディスカッション	10
6	5/29	個人面接	6
7	6/11	集団面接	5
8	6/28	個人面接	6
9	6/29	個人面接(撮影)	3
10	7/6	個人面接	5
11	7/20	個人面接	4
12	7/13	集団討論	9
13	7/26	個人面接	6
14	7/31	集団討論	13
15	8/3	個人面接(撮影)	3
16	1/16	グループディスカッション	13
17	1/30	集団面接対策	6
18	2/13	グループディスカッション	13
19	3/21	グループディスカッション	12
計			141

3) 就職相談

・キャリア・カウンセラー就職相談〔就職相談コーナー〕

【月別・相談内容別件数】

単位:件

	進路相談	進路決定 相談	内定・内定 定の相談	履歴書作成	エントリー シート作成	志望動機	自己PR	面接	メンタル面	自己分析	その他	合計
4月	7	9	0	6	30	3	1	46	0	0	0	102
5月	18	6	8	8	35	2	2	32	0	0	6	117
6月	11	1	10	1	37	2	2	30	0	0	2	96
7月	9	0	2	3	29	3	7	35	0	0	5	93
8月	17	1	1	3	17	0	1	36	2	0	8	86
9月	12	6	5	10	3	1	2	30	0	3	2	74
10月	14	2	5	11	10	2	1	18	1	1	2	67
11月	27	5	1	8	3	4	12	18	0	0	1	79
12月	26	6	1	8	33	4	12	1	0	0	3	94
1月	7	1	0	29	96	3	14	9	0	0	0	159
2月	13	4	0	17	148	1	5	31	0	1	2	222
3月	13	2	0	2	66	0	3	45	0	0	0	131
合計	174	43	33	106	507	25	62	331	3	5	31	1,320

4. キャリア・ピアサポーター

○平成24年度(前期)資格認定者 上級 10人
初級 15人
(後期)資格申請者数 上級 6人
初級 59人

5. 文部科学省補助金事業

○文部科学省大学改革推進等補助金「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(平成24年度新規事業)」に中部地域23校の代表校(幹事校)として申請し、下記の取組が選定された。

1. 取組名称: 「中部圏の地域・産業界との連携を通じた教育改革力の強化」

2. 事業期間: 平成24年度～平成26年度

3. 取組テーマ: (1) アクティブラーニングを活用した教育力の強化
(2) 地域・産業界との連携力の強化

4. 事業費: 平成24年度 181,675千円(中部地域グループ全体)
13,142千円(三重大学)

平成25年5月1日現在

注)博士課程、博士修了者については、単位取得満期退学者を含む。

内は、女子学生数を内数で示す。

【産業別就職状況】

平成25年5月1日現在

区分	卒業生(人)	就職者(人)	就職者の内訳														その他	
			農業・林業・漁業・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売・小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	学習支援・専門・技術サービス業	宿泊業・飲食サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育・学習支援業	医療・福祉		複合サービス業
学部	人文学部	113 (52)	90 (66)	1 (0)	9 (6)	9 (6)	1 (0)	1 (0)	8 (8)	9 (8)		2 (1)	1 (1)	3 (2)	19 (9)	3 (3)	1 (1)	18 (13)
	文化学部	192 (84)	160 (68)	2 (1)	22 (9)	22 (9)	2 (0)	4 (1)	5 (2)	5 (2)		4 (2)	2 (0)	4 (2)	9 (6)	2 (2)	2 (0)	45 (16)
	法学部	305 (166)	250 (134)	1 (1)	3 (1)	31 (15)	2 (0)	20 (15)	7 (2)	31 (19)	0 (0)	6 (3)	3 (1)	7 (4)	28 (15)	13 (6)	5 (2)	63 (29)
	学校教育実践部	153 (97)	123 (78)		2 (2)				2 (1)	3 (3)			2 (1)	1 (1)	96 (55)	93 (54)	3 (2)	9 (9)
	情報学部	21 (8)	16 (7)			1 (0)			1 (0)	1 (0)			1 (0)	1 (0)	7 (4)	6 (4)		
	教育学部	39 (11)	18 (11)			3 (3)			1 (0)	2 (2)				1 (1)	3 (2)	4 (3)	2 (2)	1 (0)
	人間発達学部	15 (11)	14 (11)			3 (3)			1 (0)	3 (3)				1 (1)	3 (2)	4 (3)		
	計	211 (129)	171 (107)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	13 (6)	3 (2)	5 (3)	10 (9)	0 (0)	2 (2)	2 (1)	2 (2)	111 (63)	106 (62)	3 (2)	11 (9)
	医学部	103 (27)	79 (76)													74 (71)		5 (3)
	計	188 (109)	79 (76)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	74 (71)	0 (0)	5 (3)
大学院	薬学部	78 (2)	21 (1)			17 (1)			1 (0)	1 (0)		1 (0)						1 (0)
	薬学部	85 (5)	32 (2)			16 (4)			2 (0)	2 (0)								1 (0)
	工学部	107 (18)	27 (9)			18 (5)			1 (0)	1 (1)								3 (1)
	工学部	59 (4)	23 (4)			1 (0)			1 (0)	1 (1)								1 (0)
	工学部	37 (5)	19 (4)			9 (3)			1 (0)	1 (1)								3 (1)
	計	407 (59)	145 (25)	0 (0)	23 (6)	74 (11)	1 (0)	12 (3)	1 (0)	4 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (1)
	看護学部	73 (40)	42 (26)	2 (1)	2 (2)	10 (8)			1 (1)	3 (2)	5 (2)	3 (2)			1 (1)		6 (4)	6 (4)
	看護学部	91 (35)	54 (27)	1 (1)	5 (0)	5 (2)			2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)			3 (1)	1 (1)	2 (1)	11 (4)
	生物資源学部	106 (31)	49 (16)	2 (0)	20 (3)	20 (3)			7 (3)	1 (0)	1 (1)	1 (0)			7 (5)	3 (3)	7 (3)	7 (3)
	計	271 (106)	145 (86)	5 (1)	7 (2)	35 (13)	0 (0)	11 (8)	3 (1)	19 (13)	8 (3)	1 (1)	7 (4)	0 (0)	11 (7)	3 (3)	7 (2)	24 (11)
大学院	総合文化学部	1,382 (560)	790 (411)	6 (2)	33 (9)	146 (45)	3 (0)	56 (32)	14 (5)	59 (35)	47 (32)	2 (1)	29 (11)	6 (2)	153 (85)	122 (71)	90 (81)	14 (6)
	総合文化学部	5 (5)	3 (3)						1 (1)	1 (1)					1 (1)			1 (1)
	法学部	11 (9)	6 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	法学部	12 (9)	8 (5)						1 (1)	1 (1)					6 (4)	4 (3)	1 (0)	
	教育学部	27 (12)	24 (12)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	16 (5)	16 (5)	1 (1)	2 (1)
	教育学部	42 (22)	34 (18)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	24 (10)	22 (9)	2 (1)	0 (0)
	医学部	12 (3)	8 (3)			1 (1)									3 (2)	1 (1)	4 (0)	
	医学部	7 (7)	5 (5)												5 (1)	2 (0)	5 (5)	
	工学部	73 (24)	61 (17)	0 (0)	0 (0)	3 (0)									5 (1)	2 (0)	24 (6)	1 (1)
	工学部	60 (1)	58 (1)			54 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	3 (1)	43 (11)	0 (0)	0 (0)
大学院	工学部	51 (2)	50 (1)	6 (0)	6 (0)	26 (0)	4 (0)	6 (0)	1 (0)	1 (1)		3 (1)						1 (0)
	工学部	52 (8)	52 (8)			47 (5)	4 (0)	4 (0)	1 (1)	1 (1)		1 (1)			1 (0)			1 (0)
	工学部	24 (7)	24 (7)			9 (3)			1 (1)	1 (1)		8 (2)			1 (0)			1 (1)
	工学部	32 (2)	22 (2)			13 (2)			1 (1)	1 (1)		2 (0)			2 (0)			
	工学部	25 (1)	16 (2)			13 (1)			1 (1)	1 (1)		2 (0)			2 (0)			
	工学部	227 (22)	224 (21)	0 (0)	15 (3)	153 (9)	5 (0)	15 (1)	6 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	2 (0)	0 (0)	2 (1)
	工学部	6 (1)	6 (1)			3 (0)						1 (1)			3 (1)	2 (0)		
	工学部	10 (1)	10 (1)			1 (0)						1 (1)			6 (0)	4 (0)		
	工学部	16 (2)	16 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (1)	6 (0)	0 (0)	0 (0)
	工学部	21 (9)	16 (7)			7 (3)			2 (1)	2 (1)		3 (2)			1 (1)			1 (0)
大学院	工学部	29 (7)	26 (5)			11 (1)	1 (0)	1 (0)	2 (1)	1 (0)		3 (0)			1 (1)			2 (0)
	工学部	41 (13)	36 (11)			17 (3)	1 (1)	1 (0)	2 (1)	1 (0)		4 (1)			1 (1)			6 (1)
	工学部	91 (29)	78 (23)	0 (0)	2 (1)	35 (7)	0 (0)	3 (3)	2 (0)	4 (2)	1 (0)	10 (3)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	1 (0)	2 (0)	13 (4)
	工学部	5 (0)	4 (0)			1 (0)									2 (0)			2 (0)
	工学部	2 (0)	2 (0)												1 (0)			1 (1)
	工学部	11 (2)	8 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)
	工学部	12 (4)	12 (4)			5 (2)			1 (1)	1 (1)		1 (0)			1 (0)			2 (1)
	工学部	12 (4)	12 (4)	0 (0)	0 (0)	5 (2)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	2 (1)	1 (0)
	工学部	7 (1)	7 (1)	1 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	工学部	7 (1)	7 (1)												1 (1)			1 (0)
大学院	総合文化学部	490 (115)	446 (91)	1 (0)	17 (4)	206 (21)	5 (0)	23 (5)	8 (0)	10 (8)	2 (1)	1 (1)	36 (8)	1 (1)	54 (18)	38 (11)	46 (12)	2 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)
	総合文化学部	12 (7)	10 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)	8 (3)	1 (1)	0 (0)

(注)博士課程・博士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を示す。

特別支援教育特別専攻科 12 (7) 10 (6) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 0 (0) 8 (3) 8 (3) 1 (1) 0 (0) 1 (0) 0 (0)

()内は、女子学生数を内数で示す

V SA (スチューデント・アシスタント)

2012年度のSAの取り組みを振り返って -他者を支援すること、自身が支えられるということ-

学生総合支援センター 川島 一晃

「先輩が後輩の面倒をみる」「困っている仲間を少し気にかける」といった仲間が仲間を支援するという営みは、極めて自然な相互支援として元来展開してきたものである。しかし、学生支援の充実を目指す全国の大学において、昨今ピアサポート(peer support)という名称で学生支援施策が展開している。当たり前であった学生相互の関係性を今日の大学では、改めて確認し、場合によっては構築する支援が必要とされていると認識せざるを得ない。逆に言えば、学生たちは各々が孤立する傾向にあり、相互のつながりや支援が希薄化する中、大学生活における不適応の多発や悩みを独りで抱えることでより深刻化するケース、年々増加傾向にある学生相談件数は彼らの声にならぬ悲痛なメッセージであるのかもしれない。筆者もキャンパスや教室、相談室で出会う学生の傍らに、そっと微笑む仲間の姿があれば、どれだけ眼前の学生の日常が輝くことであらうかと思うこともしばしばである。

全国的に展開するピアサポート活動の多くは、「学生が同じ学生の立場で悩みを一緒に考える」といった万相談所として展開している事例が多く散見される。本学では、仲間が仲間を支援するというこの相互支援の取り組みの本質は、“大学という一つの社会の中で様々な体験することは自身のキャリア(生き方)に寄与する”という観点から「キャリア・ピアサポーター」と銘打ち、学生個人個人の切り口(その人らしいやり方)によって、仲間を支援することを推進している。そしてその際には、支援に関連する様々な知識・技能・構えを多様な講義群から選択し、一定の力量を保証するために資格教育プログラムを作成し、初級資格、上級資格を設けている。このキャリア・ピアサポーター資格教育プログラムは、全国のピアサポート活動を展開する大学から教育プログラムとしての位置づけが画期的であると注目されている仕組みでもある。

さて、このキャリア・ピアサポーター上級資格を取得した学生を活用する学生支援施策がSA(Student Assistant)の取り組みである。学生は上級資格を取得するまでに、学習支援(ファシリテーション)に関する実践的な講義(学習支援実践)や心理的支援に関する知識を学ぶ講義(こころのサポート)が必修であるため、一定の配慮やアプローチについてトレーニングを受けた段階で、教員とともに学びの支援者として講義に参加する。授業準備や配布物の配布補助ではなく、受講生のグループディスカッションへの参加を促進するファシリテーションや、学びの中身の充実をいかに支援するかという観点から、「教員でないSAだからこそできる学習支援」を目指している点に本学のオリジナリティがある。

本報告は、キャリアピアサポーター上級資格取得に至る学びを体験し、SAとして実際に授業の場で教員・受講生と関わったSA経験者の学生に、率直な体験を体験記という形で記載するよう求めたものである。以下表1に平成24年度のSA採用者および採用講義一覧、表2に学生への振り返りの質問項目を示す。

●Table1 平成24年度SAおよび活用講義一覧

	科目名	SA数	のべ	実数	科目数
前期	キャリアプランニング(川島)	3名	20名	9名	6
	AI(川島)	3名			
	AI(中川・鈴木)	3名			
	学習支援実践(4sus)	4名			
	学習支援実践(日本語)	2名			
	ピアサポート実践	5名			
後期	学生生活支援実践	3名	17名	13名	8
	広報誌編集実践	1名			
	障がい学生支援実践	1名			
	啓発イベント実践	1名			
	留学生支援実践	4名			
	AI	2名			
	ピアサポート実践	4名			
	PBLセミナー(高山)	1名			

●表2 SA体験記 振り返り質問項目

a1 SAを体験することで自分は成長した(4件法)

a2 SAを体験することで今後役に立つ発見があった(4件法)

a3 SAとしての活動は充実した(4件法)

b1 SAを体験しての学び(SAの取り組みの中で何を学び、何を発見しましたか?)

b2 SAを体験して「変化」したこと(SAの体験を通してご自分の中で生じた変化についてできるだけ具体的に教えてください)

b3 SAの体験はあなたの今後(キャリア・仕事・学生生活・将来のイメージ)にどのように影響しそうですか?

b4 SAをこれからする後輩へのエール(SAとして工夫した点、心がけるべき点など後輩へのメッセージをお願いします)

b5 SAとして活動してみて、SAの仕事内容(これは大変だな、もう少しこんなことをしてみたいな etc)について感じたこと、今後のSA活用に向けて提案することなど自由な意見を教えてください。

紙面の都合上、以下に数例であるが、実際の学生の報告を紹介しようと思う。

●SA体験報告書(2012年度)

氏名：T.C. 学年：4年

担当授業名：AI、学生生活支援実践

SAとしての活動の役割(箇条書きで)

- ・事前準備(鍵を借りる、机の設置、PC等の用意、暖房管理、資料配布)
- ・受講生へ笑顔であいさつ
- ・質問への解答
- ・困っている様子であれば声をかける
- ・学生がしている作業に興味をもってこちらから質問してみる
- ・手持無沙汰な学生にはそっと声をかける
- ・一生懸命作業している学生には励ましの声をかける
- ・他のSAさんにさりげなく仕事を願う

質問1：SAを体験しての学び(SAの取り組みの中で何を学び、何を発見しましたか?)

AI、学生生活支援実践の両方に共通することですが、受講生が主体的に発見し考え実践する内容なので、SAとしては積極的に関わるといっても、そばで見守るというのが基本姿勢でした。ですが私自身、初期はもっと頼って欲しいと思うときもあり、この授業にSAが3人必要か?と疑問を感じていました。

そんな時、特に学生生活支援実践のことですが、後輩SAの様子を見てみると、私と同様に受講生との関わり方に不安を感じているようでした。それに気づいてからは、後輩SAが受講生と関われるようにさりげなくアドバイスしたり、私自身は一步引きつつ、そっと声をかけて仕事を願うしたりと、後輩SAと積極的にコミュニケーションをとっていました。それからは、SA全員が受講生とより明るく笑顔で関われるようになったように感じます。

今回のSAとして学んだことは、SA全員が受講生と関われるように雰囲気・体制を作っていくことで、授業も明るくいきいきとしたものになるということです。

質問2：SAを体験して「変化」したこと(SAの体験を通してご自分の中で生じた変化についてできるだけ具体的に教えてください)

変化したことは、以前は誰かの役に立ちたくて「ありがとう」という言葉が嬉しくてボランティアや支援活動をしてきましたが、SAをしてからはそのような見返りを求めないgive and give and giveの姿勢に変化しました。相手のやる気をそっと引きだし、背中を後押しすることで本人が輝いていくのが嬉しいと純粋に感じるようになりました。

そして、一番驚いたのが、そのような姿勢でいると、自然と周りとの協調でき、明るく挨拶をし合ったり「最近どうなの?」という声をかけあったりと、あたたかい関係を築くことができたように思います。4年生の最後にして、SAをしていなかったら関わることのなかった1～3年生と、ここまで深くアットホームな関係になれたことがとても嬉しいです。みなさんのご活躍がとっても楽しみです。

質問3：SAの体験はあなたの今後(キャリア・仕事・学生生活・将来のイメージ)にどのように影響しそうですか?

SAを通じて学んだ、見返りを求めないgive and give and giveの姿勢は、どこでもどのような人間関係においても非常に重要だと思います。4月から社会人になりますが、お客様との対応の際にもあたたかい姿勢が大変重要で、自分が後輩を持つようになった時に相談に乗るなどの場合にもこの姿勢は大切だと思います。周り人と本音でぶつかり合える、本心を言い合えるコアな人間関係を築くために、大変重要な姿勢だと実感しています。

また、友人、家庭においても重要だと思います。普段、ただ楽しく過ごしている関係だとしても、いざとなったら助け合える感謝し合える関係というのは、この姿勢があつてこそだと思います。

今後、社会人になり結婚したり、人間関係がどんどん広範囲になったりしますが、希薄なコミュニケーションにならないように、SAで学んだ姿勢を大事にあなたたかい関係性を築いていこうと思います。

質問4：SAをこれからする後輩へのエール(SAとして工夫した点、心がけるべき点など後輩へのメッセージをお願いします)

SAは基本見守る姿勢です。ですので、実感としては誰かの役に立っていると感じることはありません。受講生に頼ってもらえてない、と不安になると思います。でも、受講生にとっては、そこにSAがいるだけで十分なんです。自分たちが一生懸命やっている活動にいつも明るく「これおもしろそうだね、すごいね」と声をかけてくれるSAがいれば、自信がどんどん付いてくるし、よし、やってやろうと意欲が出てきます。明るく、そっと声をかけてみてください。きっと楽しい時間になります。

質問5：SAとして活動してみて、SAの仕事内容(これは大変だな、もう少しこんなことをしてみたいな etc)について感じたこと、今後のSA活用に向けて提案することなど自由な意見を教えてください。

同じ授業のSA同士で不安に思っていること、もっとこうしたいという要望を言い合う時間が、なかなかとれなかったように思います。もし、可能であれば、ピアサポートルームで、毎週〇曜日「SA相談会」を開いてみてはいかがでしょうか。同じ授業のSAが打ち合わせをするのもよし、他の授業のSAの話を聞いたり相談し合ったりするのもよし、有意義に使えらと思います。

今後、人数も増えていきますし、SA同士の連携をとるのはなかなか難しくなりますが、このような場所と時間さえ設けてあれば、繋がり合える良い機会になると思います。授業の雰囲気はSAが明るく楽しそうであればいくらかでもポジティブに変わらと思います。ぜひぜひご検討ください☆

●SA体験報告書(2012年度)

氏名：S.M. 学年：4年

担当授業名：〔前期〕キャリアプランニング,学習支援実践(4sus),AI,ピアサポート実践

〔後期〕ピアサポート実践

SAとしての活動の役割(箇条書きで)

- ・グループディスカッションの促進、就活パネルディスカッションのパネラー(キャリアプランニング)
- ・授業の進行、グループディスカッションの進行・まとめ(学習支援実践)
- ・グループディスカッションの促進(AI、前後期ピアサポート実践)

質問1：SAを体験しての学び(SAの取り組みの中で何を学び、何を発見しましたか?)

受講生自身のアイデアが非常に豊富であり、それを引き出しさえすれば特に導こうとする必要はないということ。このアイデアは恥ずかしがって受講生から自発的に言うことはなかなかないが、SAやグループのメンバーが質問を重ねるとたくさん出てくることが多い。グループの雰囲気がよければそのまま盛り上がりユニークな発表にも繋がるし、出てきたものをSAが簡単にまとめるだけでもディスカッションの指針になるようである。

また、特に前期の最初の頃は大学生活や授業に不安を抱える学生が多いと感じた。授業とは関係のない話も可能な限り積極的に交わすことが、人に自分のことを語る経験となって、意見を述べるという行為への慣れにつながり、早く授業やグループに馴染めるのではと思う。

質問2：SAを体験して「変化」したこと(SAの体験を通してご自分の中で生じた変化についてできるだけ具体的に教えてください)

昨年度は「受講生自身に気づかせよう」とヒントを与えるだけにして、彼らのアイデアを潰さないようできるだけ自分の意見は言わないようにと努めたが、これは非常に難しいことで、相手の意図を汲み、相手に合った対応をし、なおかつ新しい発見へ導くためには、多くの観察と思考、また行き詰まった状況を打開できるだけの豊かな発想力が必要であると感じた。さらに、手こずる彼らに対して私は言いたいことが言えず、受講生はやりたいことがうまくいかずに、お互いにフラストレーションを溜めてしまったことも反省点だった。

そこで、本年度は思ったことは〈提案〉として伝えてしまうことにした。それが受講生に対して最善だったかどうかは今でも疑問であるが、少なくとも私自身は自然体で応じることができ、学年がひとつ上がったものの昨年度よりも受講生に近い視点に立てたと思う。

もちろん、受講生のアイデアを潰さないようにと、特に注意した点が3つある。①受講生の様子をよく〈観察〉すること。②受講生の意図を理解するまで〈質問〉すること。③受講生を〈肯定〉することを基本姿勢として、それに〈提案〉する形で意見を述べること。昨年度の指導者的視点に比べ、より対等な関係を結ぶことで、学生だからこその気負いのない対応と、また私が私らしく授業に臨むことが可能となった。

以上3つの注意点は日常でも役立ち、とにかく相手を理解したいという姿勢、相手を認めるという姿勢は、欠点を探す減点方式で考えていない分、コミュニケーションを楽しめるものになっていると思う。昨年度はこうしたことを意識的に行なわなければならなかったが、今では自分のひとつの価値尺度として定着している。

質問3：SAの体験はあなたの今後(キャリア・仕事・学生生活・将来のイメージ)にどのように影響しそうですか?

具体的で直近の場面としては、会社で後輩指導を任された際によりよい関係を持つことができると考えられる。これは実際、就職先の上司に採用面接ではめていただいた点で、特に相手を理解する姿勢を重視することに関して、「コ

ーキングの基礎ができている」ということだそうである。社内でのアルバイト中も、社員の方々には私の意見を聞いてくださる方が多く、意志疎通が密に取れたことを感じた。同じように、私も後輩とのコミュニケーションを取っていきたい。

また、将来的には採用人事の担当に就きたいと考えており、その際にも、就職活動中の学生のよい点をひきだせるようなコミュニケーションができると思う。

質問4：SAをこれからする後輩へのエール（SAとして工夫した点、心がけるべき点など後輩へのメッセージをお願いします）

あまり気負いすぎないこと。自分の性格や、受講生それぞれとの相性などから、全てを完璧にこなすことは不可能。指導者になろうとするよりは、むしろ客観的な意見を提供する、しかし教員よりはフランクに付き合える第三者、という立場が最も無理がない。受講生のよさを引き出そうと気を配るのと同様に、自分のよさも最大限に利用してできることをする、と考えるほうがお互いに楽しめると思う。

質問5：SAとして活動してみて、SAの仕事内容（これは大変だな、もう少しこんなことをしてみたいな etc）について感じたこと、今後のSA活用に向けて提案することなど自由な意見を教えてください。

〔教員とSAとの関係について〕

授業の形態や教員の方針等によって、SAの活用方法はさまざまであっていいと思う。しかし、SA自身が自己存在に疑問を抱くような場面も少なくない。SAがどのような過程でその資格を取得し、そのためにどのようなスキルや能力を持っているのか、それらを発揮するためにどのような活用方法があるのか、ある一定のガイドラインが教員の側にあってもよいのではないだろうか。

もちろん、マニュアル化できるものではないため、特に教員とSAとの意思疎通は密に取るべきであると考え。私は懇意な教員の方々や担当させていただくことばかりだったため、コミュニケーションが取りやすく、授業毎に求められる役割が違っているという心構えができたことは幸運だった。

〔SAが受講生に伝えること〕

先日、母校の高校の先生とお話する機会があり、就職活動のことが話題にのぼった。とりわけチャレンジ精神が採用基準のひとつとなっていて、大学でどれだけ積極的な活動ができたかという点は評価になる。その活動でよい刺激を得られた者はチャレンジすること自体を楽しむことができるようになる。しかし、学生の中には自発的に新しい環境へ飛び込もうとしない者、将来の夢が描けない者もあり、これについては高校でも課題になっているということだった。私は「三重大学はその刺激を得られる環境を〈授業〉という形で提供しようとしていると思う」と答え、また、一度そのよさを実感できれば今度は自らチャレンジできる環境をつくる人材になると考えた。

恐らくSAになるような学生は、そうした人材の一例である。SAは、今度は後輩にチャレンジの楽しさを伝えるという役割があるのではないだろうか。ひとつの課題についてグループでしっかり議論させること、その中で多くを考えさせアイデアを具体化させることを通して、受講生はある種の達成感が得られるはずである。受講生のアイデアを肯定し、それにチャレンジさせることを後押しするような声掛けや環境を整えることが、SAのひとつの存在意義であると思う。

能動的な
行動力が
身につくよ!

Career



たくさんの
人と
知りあいたい



キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド 2012

NEXT STEP

Discover

あなたもキャリア・ピアサポーターになってみませんか?
(Career・Peer Supporter)

Dream

Design



大学内で
職場体験が
できるんだって!



キャリアアップで
自信がつくよ!

Destiny



学生総合支援センター

資格をとって、大学づくりに関わろう！ ～仲間と一緒に大学を変える！自分も変わる！～



例えば
こんな業務
やってます

資格を取得することで参加できる！ 学内業務の一例

活躍の場が
広がるね！



※業務に参加するに当たって必要な資格要件は、その業務ごとに設定されています。詳しくは、各業務担当者に直接お問合せください。
※業務内容によっては、大学から謝金が支払われるものもあります。

授業補助

キャリア・ピアサポーターがSA (Student Assistant) として『「4つの力」スタートアップセミナー (4SUS)』、『キャリア実践科目』、『学習支援実践』、『PBLセミナー』等のセミナー・実践形式の授業において、教員の指導のもと、受講している学生の補助をすることができます。授業中は教室内を巡回して、教員の指示を理解しきれていない学生をサポートします。

※『学習支援実践』という授業が週に一回あり、キャリア・ピアサポーター同士でSAをしたときの反省点や改善点を話し合います。

各種学生サポート

大学生活についての相談窓口を開設するなどの各種学生支援企画を実施したり、他団体等の学生支援企画の運営をお手伝いしたりします。

※相談窓口開設に当たっては、事前にカウンセラーより相談に関する研修を受けることができます。



他にもこんな業務に関われるチャンスがあります！

- 学生同士の交流や大学活性化、キャリア支援を目的としたイベントの開催
- 修学支援企画の立案・実施
- 学内の各種学生団体とのコラボレーション

その他、学内さまざまなところで力を発揮できます！ 学生の声を聞いて、今何をすることが必要なのか、メンバーみんな考えていきましょう！



資格を取得
してからの
自分の変化

- ★自ら行動する力がつく！
- ★学部・学年を越える仲間と出会い、高めあえる。
- ★より充実した大学生活に！！

申請ってどうするの？

資格認定までの ステップ

申請はとっても簡単！
気軽にチャレンジ
してみよう！



STEP 1

キャリア・ピアサポーター資格申請書および 成績証明書を提出

定められた時期までに、キャリア支援センター（就職支援チーム）に提出します。

申請期日

前期末申請：9月中旬予定 後期末申請：1月下旬予定

※詳しくは掲示板等で確認してください

対象科目は？

資格取得に関わる科目群

実践につながる
科目がいっぱい！



初級資格

授業科目名	単位
初級必修科目	
①「4つの力」スタートアップセミナー	2
②キャリアプランニング	2

※キャリア実践科目から1科目を選択のこと

上級資格

授業科目名	単位
上級必修科目	
①学習支援科目(学習支援実践[I~III])	2
②心の援助科目 (「こころのサポート」あるいは 「AI-人と組織を生かす発想法-I」)	2

※下記「選択科目」から2科目を選択のこと

選択科目

キャリア実践科目	単位	キャリア実践科目	単位	キャリア実践科目	単位
学生生活支援実践	2	環境ISO実践	2	法則探険実践	2
ピアサポート実践	2	障がい学生支援実践	2	留学生支援実践	2
広報誌編集実践	2	美し国おこし三重実践	2	PBLセミナー：キャリアイベント実践	4
大学紹介実践	2	啓発イベント実践	2		
地域づくり実践	2	三重大ブランドづくり実践	2		
その他選択科目	単位	その他選択科目	単位	その他選択科目	単位
アントレプレナー論	2	仕事・社会を知る	2	キャリアインターンシップII	2
三重ブランドの創出	2	法則探険入門	2	現代の消費生活と消費者の自立	2
キャリア形成・能力開発	2	キャリアインターンシップI	2	ライフ・プランニングと社会参画	2

※内容と開講時間等は、当該年度の履修案内・シラバスで詳細を確認してください。

STEP 2

キャリア・ピアサポーター 資格認定委員会による 審査

学生総合支援担当副学長、キャリア支援センター長、キャリア教育担当教員等から成る認定委員会が審査します。

STEP 3

基準を満たす学生に 対して、初級資格、または 上級資格認定証を授与

資格認定者の発表は、前期末申請分については9月下旬、後期末申請分については次年度4月上旬を予定しています。

資格認定基準

- 資格認定要件となる授業において単位を取得していること。
- キャリア・ピアサポート活動に従事するに当たり、十分な意欲と素養を備えていること。

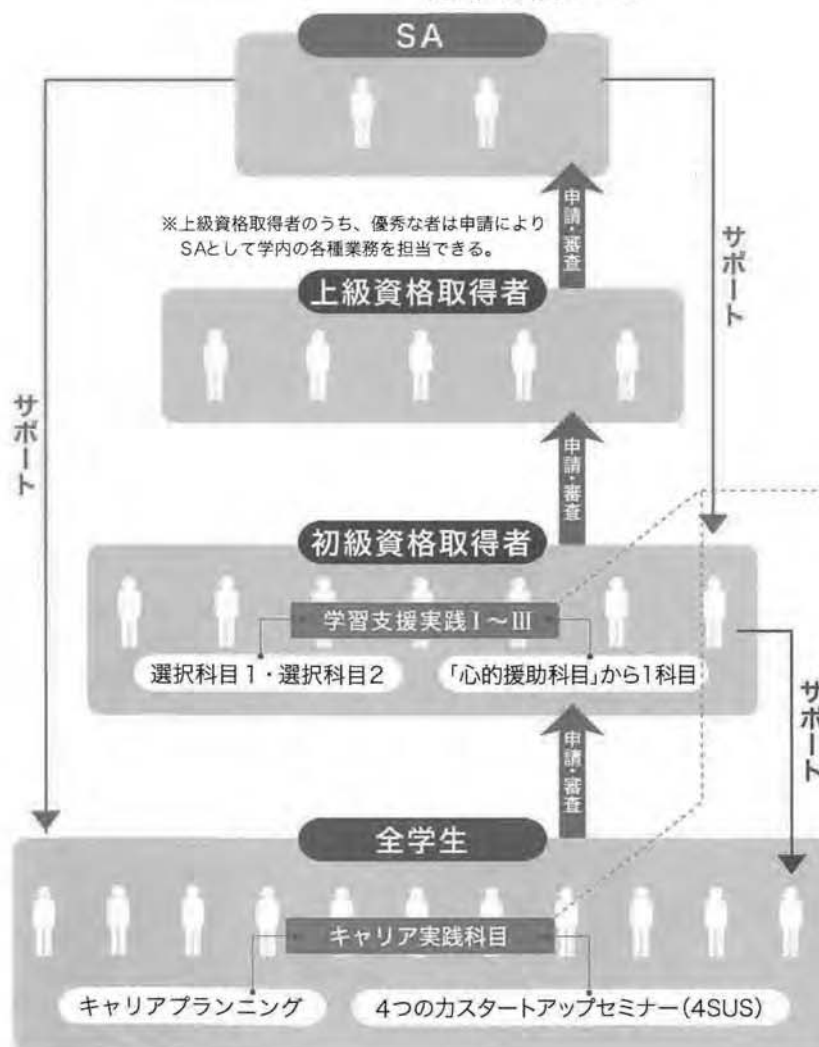
ステップ
アップの
仕組みって？

キャリア・ピアサポーター 資格教育プログラム

キャリアUPで
自信をつけよう！



●SA (Student Assistant) … 教員の要請により授業補助等の業務を担う学部学生のこと



キャリア実践の各科目や「学習支援実践」を受講した学生が、資格取得により次年度にはSAとして、受講生のサポートに入ることができます。

キャリア実践科目



例) 学習支援実践I



資格取得を通して社会人としての 「実践力」を身につけよう！



大学までの勉強では知識の獲得が最も重視されますが、実際に社会に出てみれば、

知識量だけでなく、獲得した**知識に基づいた実践のための応用力**が求められるようになります。

しかしながら、こうした能力を身につけるためには、ただ漫然と授業を受けるだけではなく、

学生時代に様々な取り組みに主体的に参加することで、経験を通して積み重ねていかなければなりません。

三重大学では、「生きる力」の養成や自身のキャリア形成につながる様々な授業科目を用意しています。

また、所定の科目を履修した学生に対しては、「**キャリア・ピアサポーター初級資格**」

および「**キャリア・ピアサポーター上級資格**」を認定します。

「キャリア・ピアサポーター」資格を取得した学生は、授業補助等で教員のサポート役を担う

「SA (Student Assistant)」をはじめ、学生が同じ学生を横の関係で支援する「なんでも相談活動」や、

各種修学(授業)支援、アカデミックフェアやキャリアイベントといった各種イベント企画など、三重大学の活性化にも

つながる様々な活動に参加してもらうことで、その力を発揮することができます。さらには、こうして学内の様々な

現場を「職場」として体験することを通して、就職活動に不可欠な“対人関係能力”や“コミュニケーション能力”といった能力を身につけていくこともできるでしょう。

あなたも、「キャリア・ピアサポーター」資格を取得して、一緒に三重大学を盛り上げていきませんか。

そして、**あなた自身の「実践力」**を伸ばしていきませんか。



キャリア・ピアサポーター宣言

キャリア・ピアサポーターは、
多様な教育環境や学生・教員・職員との連携・協働を活かして、
学生が自己の可能性を見つけるきっかけづくりをします。
そして、人とのつながりを大切に、
大学全体とともに高め合える風土づくりを目指します。

2011年2月11日
ピアサポーター学生委員会



三重大学学生総合支援センターホームページ
<http://www.mie-u.ac.jp/life/>

発行／平成25年8月

国立大学法人 三重大学

問い合わせ先／学生総合支援センター

〒514-8507 津市栗真町屋町1577

TEL:059-231-9679

三重大学life

click